

暖地型牧草のラインアップ

雪印種苗(株) 宮崎研究農場

若松 勇



1 はじめに

近年、大型機械の普及によりロールベールやラッピングサイレージの利用が多くなってきております。冬場ですとイタリアンライグラス・エンバク、夏場ではスーダングラス・ソルガムと言った様に、比較的発芽・初期生育が良く、収量もある程度確保できる草種が選定されてきました。一方ここ数年、この機械体系に合う夏場の飼料作物として、暖地型牧草の利用が増加してきています。上記の作物と同じように、細茎で乾燥しやすく機械での刈取りが容易に出来る事が、利用が伸びている1つの理由だと思えます。

ただ、暖地型牧草は種類が大変多く、特性も多様であり、それぞれの栽培条件に合った草種の選定が重要であること、また、栽培方法も長大作物・冬作物と異なる点が多く、ポイントをしっかり押えておかないと失敗することも少なくありません。



写真1 ローズグラス カタンボラ

ん。今回は、当社が取り扱っている暖地型牧草の特性と栽培上の注意点についてご紹介致します。

2 主要草種の紹介

ローズグラス「カタンボラ」「カリデー」

暖地型牧草の中で、ローズグラスは最も利用される代表的な草種です（写真1）。

耐湿性は中～やや良で、各種土壌によく適応し、飼料畑・転換畑のいずれにも適しています。初期生育は暖地型牧草の中でも比較的早く作りやすい方ですが、種子が微細で軽いので播きむらの出ないように注意して下さい。風で飛ばされないよう、砂や肥料と混ぜて播いてもよいですし、播きやすいようにコート加工した種子も販売されています（写真2）。

コート種子の場合、播種量は通常の倍量の5～6kg/10aとし、鎮圧は必ず行って下さい。刈取りは穂ばらみ～出穂始期（草高80～100cm）でおこ



写真2 ローズグラス コート種子



写真3 ギニアグラス ナツサカリ

なうと、再生も良く嗜好性も良好です。あまり生長しすぎて過繁茂になると倒伏したり、刈取り後の再生が特に悪くなるので、刈り遅れのないように注意が必要です。また、ローズグラスには独特の臭いがあるため、最初は牛の食いが悪いことありますが、慣れてくると食べるようになります。

ギニアグラス「ナツサカリ」「ナツカゼ」

ギニアグラスはローズグラスに次いで利用の多い暖地型牧草です（写真3）。

初期生育が早く多少の雑草との競合でも収量を得ることができます。耐旱性は強いですが、耐湿性に弱いため排水良好な圃場に播種を行って下さい。播種量は1～2kg/10aを標準として、コート種子は倍量を必要としますが、播種作業が楽になります。刈取りは出穂前～出穂始期（草高130～140cm）の頃を目安に刈り取って下さい。出穂期以降になると茎が固くなるため、早めの刈取りをお勧め致します。刈り遅れると嗜好性が低下しますし、結実した種子の落下で雑草化するおそれがありますから注意して下さい。

また、刈取り作業等が大型トラクターの作業になりますと、車輪の踏圧被害により2番草以降の再生不良を生じる場合があります。踏圧被害を最小限に抑える方法として、同一場所をなるべく走って被害を集中させ、他の場所への影響を回避させるのがよいでしょう。利用は乾草やサイレージに適しています。茎がやや太いので、乾草調製にはモアコンディショナーを使うとよいです。



写真4 ヒエ 青葉ミレット



写真5 アワ イタリアンミレットR
ヒエ「青葉ミレット」

ヒエは古くから食用作物として栽培されていますが、暖地型牧草の中では最も耐湿性が強く、堪水条件でも栽培が可能です（写真4）。

土壌を選ばず安定した収量が望めますから、水田転作による飼料生産に向いています。播種量は2～3kg/10aを目安にして下さい。嗜好性も良好ですしサイレージや乾草利用にも適します。やや太茎で水分が多いので、予乾・反転作業を頻繁に行ってください。

アワ「イタリアンミレットR」

発芽・初期生育に優れ、播種後40～50日で出穂して短時間で収穫できる草種です（写真5）。直立型で茎葉が細く乾燥が速いので、乾草調製も容易

にでき嗜好性も優れています。

ローズグラスとの混播が出来ますので、ローズグラス2kg + イタリアンミレットR0 5kg / 10aの播種量で行い、単播での利用時は2 ~ 3kg / 10aで行って下さい。尚、湿害に弱いので排水の良い圃場を選ぶ事と、再生利用が出来ませんのでご注意ください。

3 栽培上の注意点

耕起・整地

暖地型牧草は種子が微細なものが多いため、播種前の耕起作業は丁寧にやって下さい。特に転換畑を利用する場合、土壌の固まりが多いので、ロータリーを2回がけするなどして、丁寧に整地をするようにして下さい。

播種時期

平均気温が15℃になった頃からが適期となりますが、利用上からは梅雨明け以降が収穫・調製を行いやすいので、5月下旬を目安に播種準備を行うとよいでしょう。

播種方法

暖地型牧草は種子が小さくて軽いものが多く、風に飛ばされやすいので、播きむらを起こさないように注意しましょう。コート種子を使用する場合は生種子の倍量を播種します。

播種後、発芽・定着をよくするために必ず鎮圧を行って下さい。特に乾燥している場合に効果があり、ローラーでしっかり鎮圧を行うと発芽・生育も良好となります。覆土については、1cmくらい(表面を引っかく程度)を目安に行います。

また、トラクターによってはロータリーの回転速度を遅くできるタイプがありますので、低回転で覆土を行ってもよいでしょう。

施肥

10a当たり堆肥2 ~ 3t・石灰100 ~ 150kgを散布して耕起作業を行います。元肥として窒素・リン酸・カリをそれぞれ5kg程度施用して下さい。堆肥が入っていない場合は7 ~ 8kgとします。刈取り後の追肥としては、窒素・カリを5kg程度施用

表1 暖地型牧草の特性と栽培

(草種名) 品 種 名	嗜好性	乾草 適性	踏 圧 再生	耐湿性	播種量 (kg/10a)	刈取時 の草高 (cm)	地域	5月	6	7	8	9	乾物収量の 目安(合計) (t/10a)
(ローズグラス) カタンボラ	△	◎	◎	○	2 ~ 3 コート:5-6	80	関東	●		0.7		0.5	1.2
							西南 暖地	●		0.8		0.5	1.3 0.5
(ギニアグラス) ナツサカリ ナツカゼ	○	○	△	×	1.5 コート:2-3	130	関東			0.8		0.5	1.3
							西南 暖地	●		0.9		0.5	1.4
(ヒエ) 青葉ミレット	○	△	△	◎	2 ~ 3	100	関東	●					0.7
							西南 暖地	●					1.5 0.8
(アワ) イタリアンミレットR	○	○	×	×	2 ~ 3	100	関東		●				0.7
							西南 暖地	●					0.8

評価 :優、:良、:(中)×:不可(弱) 注 ●:播種期、-:生育期、/ :刈穫期

して下さい。

刈取り時期

播種後50 ~ 60日で腰の高さ(80cm程度)になってきます。草を手にとって伸ばすと120cm前後になりますから、この時期に刈取りを行うと共に、再生を良くするために刈高を10cmとして下さい。生収量で3t前後(乾物で700 ~ 800kg)の収量が見込めます。

刈り遅れになると茎が固くなり、嗜好性の低下、再生不良の原因につながりますので、適期に刈取りをお願いします。

刈取り後の水分調整を行うには、夏期の晴天時であれば2日の予乾で50 ~ 60%程度の水分量となります。

*表1に暖地型牧草の特性と栽培のポイントをまとめましたので参考にしてください。

4 おわりに

ここ数年は台風の被害も無く、飼料作に関しては非常に良い年でありましたし、今年もそう願いたいものです。

今回の紹介で、今まで暖地型牧草を播きずらいと考えておられた方々、また、今年こそは播いてみようかと思案中の方々に、多少でもお役に立てればと期待しております。

今回説明致しました草種の他に、今春から新たな品種として「なつ乾草」を発売いたしますので、次号でその特性をご紹介致します。